

## ■令和7年度の取り組みと、これまでに見えてきたこと

### ◆実際の暮らしの中で使ってもらう実証として

令和7年度は、将来の本格実施を見据え、市内のシニア20人を対象に、電動アシスト自転車を一定期間貸与するモニター実証を行っています。日常生活の中で実際に利用してもらい、外出の様子や感じたことなどについて、アンケートや走行データの収集を進めています。

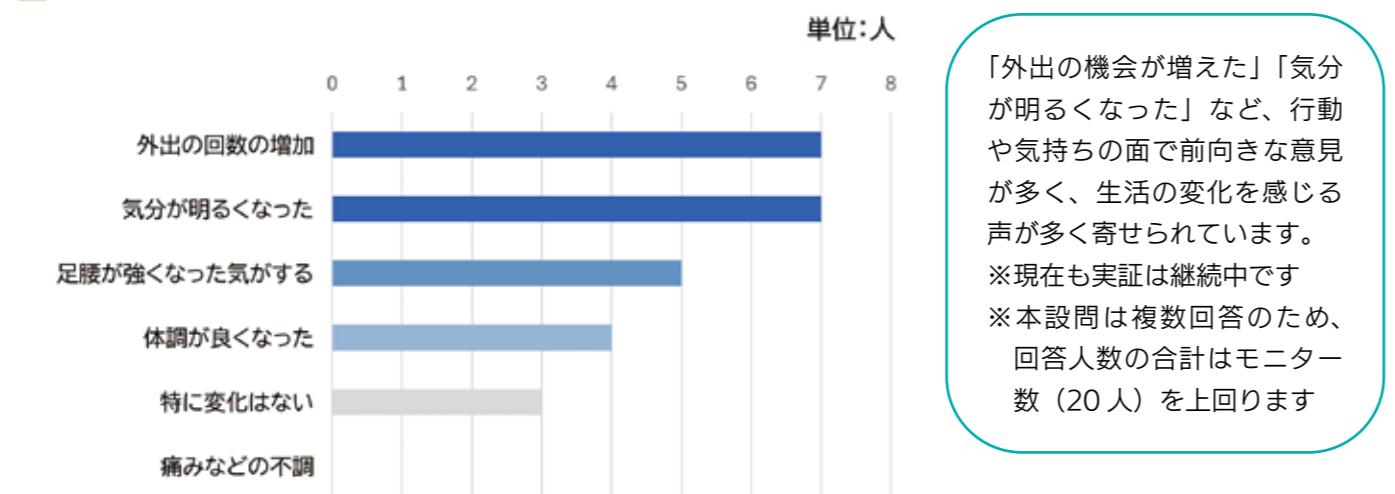
### ◆中間段階で見えてきた傾向と、引き続きの検証

これまでの中間アンケートでは、買い物や趣味など、日常の移動手段として利用されている様子が見られています。また、「外出する機会が増えた」「気分が明るくなった」といった声や、利用を続けたいと感じている人が多いなど、前向きな傾向もうかがえます。

一方で、安全面や利用環境についての意見も寄せられており、市ではそうした声も含めて、実証を通じた検証を重ねています。現在もモニターの皆さんには、実証期間終了（令和8年2月28日）まで、引き続きデータ収集にご協力いただいているです。

### 【中間アンケートの結果から】

#### 電動アシスト自転車を使うようになって感じた変化



### ■令和8年度にむけて

eチャリプロジェクトについては、将来的な本格実施を見据えつつ、令和8年度も引き続き検証を行います。新たに選定したモニターを対象に、一定期間、電動アシスト自転車を貸与し、外出行動や生活の変化を通じて、健づくりや介護予防への効果を確認していきます。

あわせて、市のイベント等と連携した試乗機会を設け、シニアの方が電動アシスト自転車に触れる場も広げていきます。

### ■高校生と一緒に考えるeチャリプロジェクト

eチャリプロジェクトでは、淡路三原高校と連携し、高校生が主体となってシニアの移動や自転車を取り巻く環境を地域課題として捉え、考え、提案につなげていく取り組みが進められています。

現在、生徒たちは、高齢者が電動アシスト自転車をより身近に感じられるための広報の工夫や、高校生の視点から見た道路環境などについて調査を行っています。

これらの取り組みの結果は、今年の夏頃に提案としてとりまとめられる予定であり、若い世代が地域の課題を自分ごととして考える学びが、eチャリプロジェクトの今後にも生かされます。

## シニアの外出を、もっと自由に ～南あわじ市「eチャリプロジェクト」～



市長寿・保険課生涯活躍推進室 43-5260

### ■なぜ南あわじ市は「eチャリプロジェクト」を始めたのか

#### ◆車に頼る暮らしの、その先を考えるため

南あわじ市では、日常の移動の多くを自動車に頼っています。買い物や通院、ちょっとした外出も車が当たり前という暮らしは便利な一方で、「運転をやめたあと、どうやって外に出るのか」という不安を、誰もが心のどこかに抱えています。

市がeチャリプロジェクトを始めたのは、シニアが免許を返納する“その日”的だけを考えたからではありません。10年後、20年後もこのまちで自分らしく外出続けられる暮らしを、今から準備していく必要があると考えたからです。



#### ◆無理なく身体を動かし続けられる手段として

そこで市が選んだのが電動アシスト自転車でした。自転車は身体を動かしながら移動できる身近な手段ですが、坂道や距離の不安から、日常的に使い続けることが難しい人も少なくありません。

電動の力を借りることで移動そのものが楽になり、「また乗りたい」「もう少し先まで行ってみたい」と感じられます。そして、その楽しさこそが外出を続けるきっかけになります。自動車での移動に比べ、ペダルをこぎ、バランスを取りながら走る自転車は、自然と身体を動かすことにつながります。日常の中で無理なく身体を使い続けられることも、大切な視点の一つです。

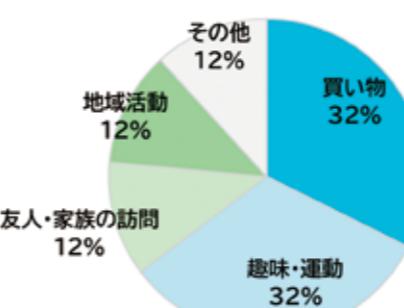
#### ◆運転免許証を「返納してから」ではなく「今から」の準備

将来、車に乗らなくなったときに、「明日から電動アシスト自転車に乗りましょう」と言われても、身体の使い方やバランスの問題から、実際には難しい人が多いのが現実です。自転車に乗り続けてきた期間があるからこそ、無理なく使い続けられます。それは、長い時間をかけて身につく力だと考えています。

将来、運転免許証を返納する際に、「大丈夫。ずっと自転車に乗ってきたから、買い物や病院くらいなら困らない」と言って、生活の不便さを感じずに暮らせる人が増えていく。eチャリプロジェクトは、そんなまちの姿を目指した取り組みです。

### 【中間アンケートの結果から】

#### 電動アシスト自転車の主な利用目的



利用目的は「買い物」や「趣味・運動」が中心で、日常の外出手段として使われています。

